第 7 回　Thiel 法固定遺体による麻酔ワークショップ

2016 年 1 月 30 日　札幌医科大学

ワークショップに参加することで、自分の引き出しを増やすことが出来たと思います。

私が 11 月に大学病院で働き始めて 3 か月がたちました．今までも末梢神経ブロックは経験がありますが，数種類の限られたものしか見たことがありませんでした．普段は他の先生方が実施している姿もあまり見ることがなく，新しい末梢神経ブロックの手技に加えて，自分以外の先生方が実施している姿を見ることができるのも貴重な経験だと思いました．そこで今回，様々な部位のブロックを献体を使って勉強することができるということで，参加させていただきました．初日の午前は基礎知識の講義でした．頭部の頭皮ブロック・頸部の頸神経叢ブロックや星状神経節ブロック・腕神経叢ブロック・腹部の腰方形筋ブロックや TAP ブロック・下肢の末梢神経ブロック，また緊急時の気道確保についての詳細な資料と説明がありました．午後に行われる献体での実践に備え，一通りの知識の予習と再確認ができました．教科書上の知識のみでなく，実際の経験を交えてメルクマールになる構造や穿刺の際のコツを教えていただけたので，強く記憶に残すことができました．午後には実際の献体・エコー・ブロック針を用いての超音波ガイド下神経ブロックや気道確保の実習を行いました．血管の走行が確認しづらいなど，生体とは異なるところもありましたが，皮膚穿刺の感覚や筋肉の走行などは超音波ガイド下でも綺麗に確認でき，超音波ガイド下で実際のブロック針を使いながらの穿刺は，まだ修行中の身である私にとっては貴重な経験となりました．エコー

を持ちながらブロック針を穿刺し，それを画像上に出すことにも毎度一苦労な私ですが，プローブの固定の仕方や画面上で針を見失ったときの探索の方法などもワンポイントとして教えていただき，大変勉強になりました．また，緊急気道確保も実際にメスを入れるところからさせていただきました．JATEC などで，模型を使っての練習は経験がありましたが，麻酔カートの中に入っていて緊急気道確保が必要な場面に自分が遭遇した時に使えなければいけないものとして意識して手技を行うのはまた緊張感が異なり，より身近なものに感じることができました．そのような緊急事態はない方がよいとは思いますが，実際に使わなければならない機会に遭遇した際に，一回でも経験しておくことで自分の引き出しを増やすことができたと思います．今まではまだ自分の経験のある末梢神経ブロックしか試すことができていませんが，これからも新しい手技を勉強し，大学にいて上級医の先生方がたくさんいて，指導をいただける環境にあるうちに，末梢神経ブロックを含め色々挑戦していきたいと強く思いました．手技に関しては経験数がとても大事だと思うので，臆せずになんでもやってみようと思います．

このような機会をいただけたことをありがたく思います．ご献体の方々の冥福をお祈りするとともに，ご協力に感謝申し上げます．また，講師として指導いただいた先生方，札幌医大以外からいらっしゃった先生方，このワークショップに遠路はるばるご参加いただいた参加者の皆さま，お疲れさまでした，ありがとうございました．

札幌医科大学麻酔科学講座

後期研修医　吉田　奈央